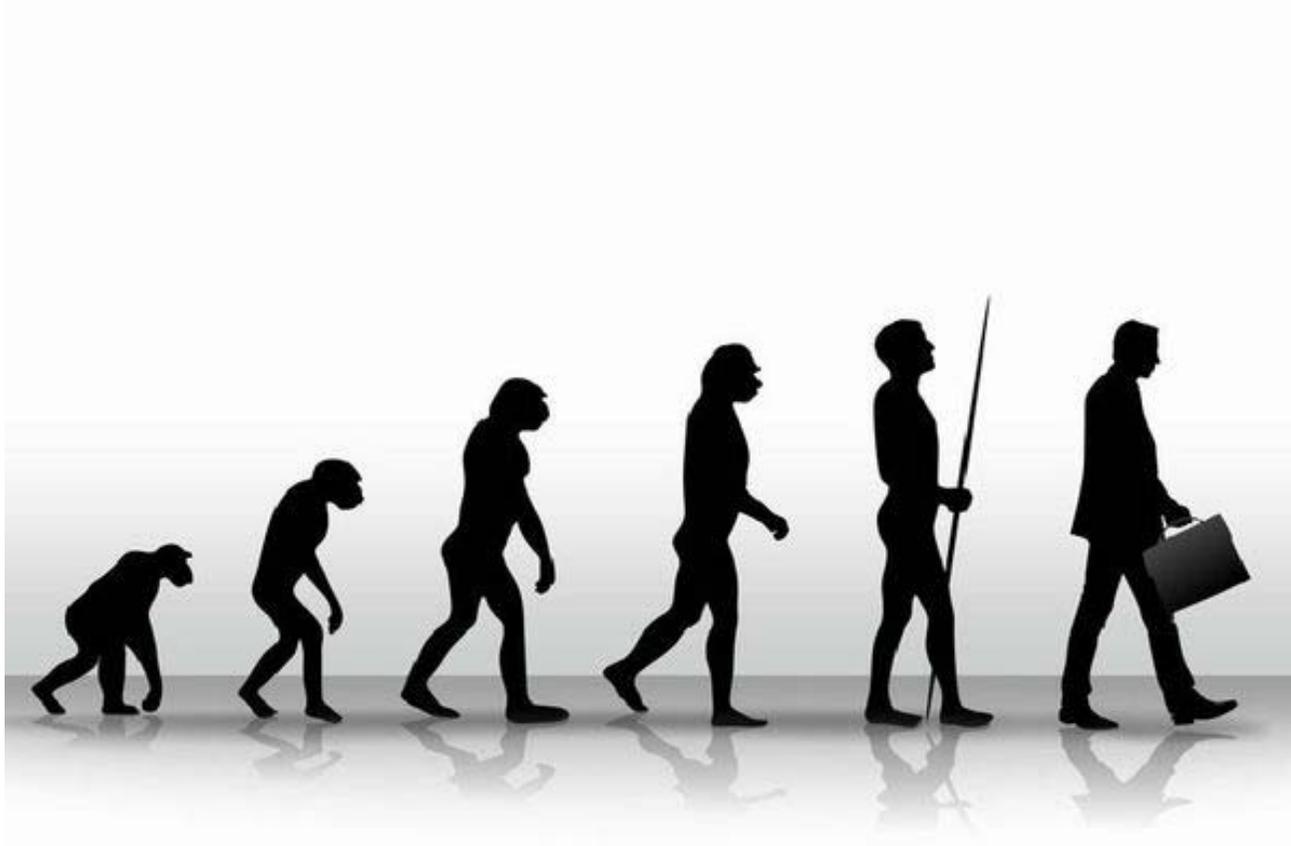


# ネオサピエンス

## - 回避型人類の登場 -



回避型人類の登場

# ネオサピエンス

岡田尊司

**IT革命は、心の絆を求めない  
新人類を産んだ。**

最前線の臨床医が、最先端の進化論と出会ったとき——  
30年間の臨床と研究データが語る  
**驚愕の未来レポート**

# 1. 作者（岡田尊司）の視点

## 岡田尊司（おかだたかし）

- ・30年のキャリアを持つ精神科医
- ・東大文学部哲学科から京大医学部へ転じ、同大学院で研究
- ・京都医療少年院で重大な事件や薬物犯罪などを起こした若者の精神的危機と長年向き合ってきた。

- ・現在は大阪のクリニックや心理センターを拠点に、臨床の最前線に立ち続けている。
- ・子どもの脳の発達に悪影響を及ぼすゲームの依存性を初めて指摘した「脳内汚染」、「インターネット・ゲーム依存症」など、時代を先取りする論考を発表。

### 産業革命以降

- ・人類の社会の構造が大きく変化
- ・家族という単位が崩壊⇒生活を共にするだけの単位
- ・離婚の急増、結婚する人の数が減り続けている

### 1960年代以降

- ・女性の社会進出
- ・核家族化に伴う虐待行為、子供に対するネグレクトに近い状況の発生
- ・子どもが育つ環境が激変⇒愛着（親との絆）障害が激増

### IT革命

- ・人類の精神構造や存在様式を変化
- ・家族団らんや人間同士の対面コミュニケーションの時間を奪い続けている

### 愛着崩壊・脱愛着化

- ・生物としての人類のあり方を根底から覆そうとしている
- ・心の絆を求めない「新人類」へと進化

#### 【1960年】

- ・池田内閣は「国民所得倍増計画」
- ・「高度経済成長」が始まるが、公害も発生

## 2.1960年代前後から突如増え始めた現代の奇病

●1960年代前後から突如増え始め、その後は増加の一途をたどる

現代の奇病  
(不可解な症状)

病名

症状

原因

境界性パーソナリティ障害

孤独に対する耐えがたさを有する

幼児期の虐待

子どものうつ

怒りっぽい、過眠、過食

学校での学習困難、いじめ、虐待

躁うつ

躁状態とうつ状態を繰り返す

遺伝的背景、性格、過労、心理的葛藤、身体疾患、社会的な要因

摂食障害

拒食症、過食症

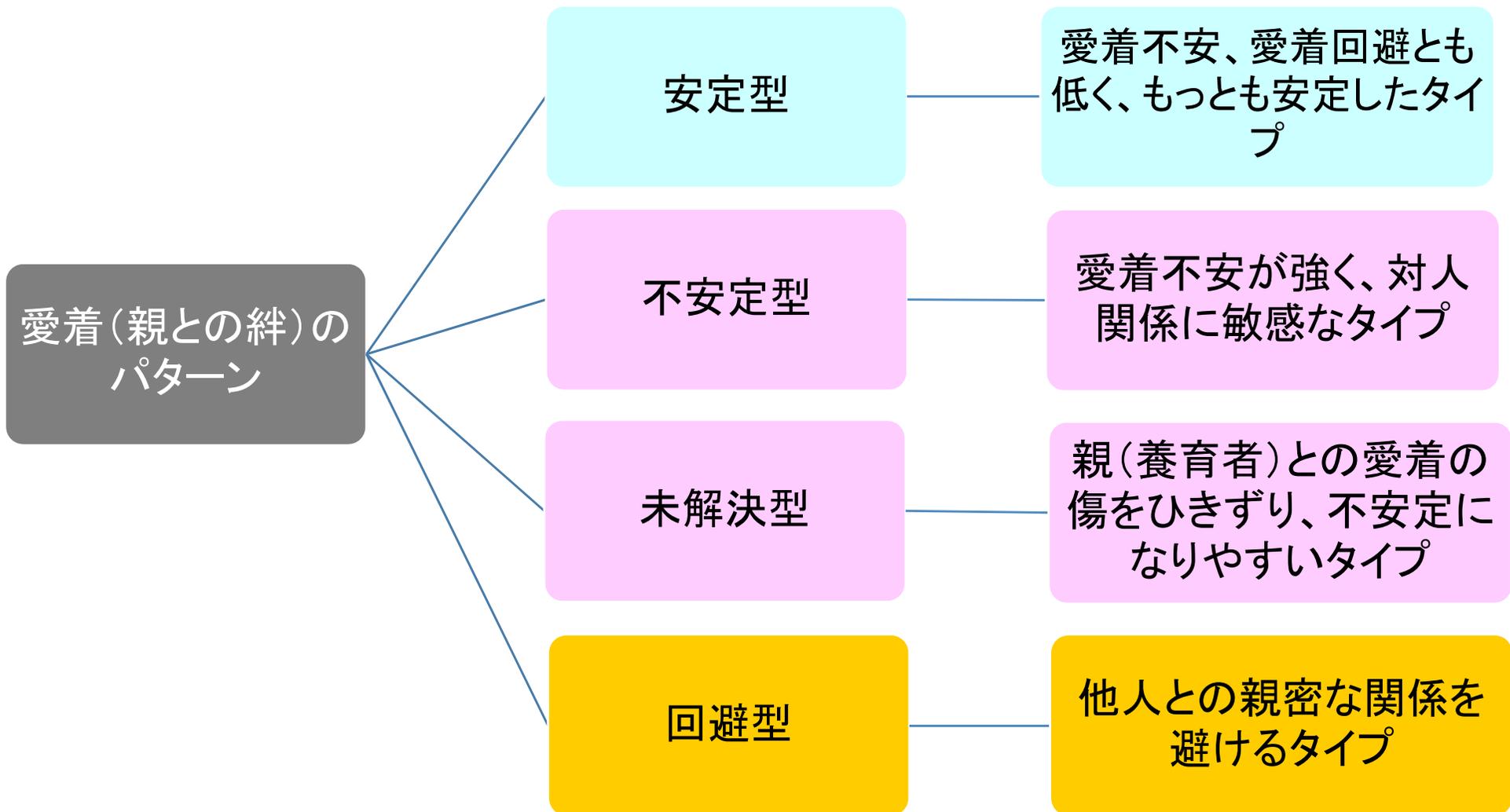
様々なストレス

ADHD(注意欠陥／多動性)

不注意(集中力のなさ)、多動性(落ち着きのなさ)、衝動性(順番待ちができない)

現時点では不明

### 3.現代の奇病と関連する愛着のパターン



## 4.愛着パターンの分類

愛着パターン	親との絆		特性1	特性2	特性3
安定型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親密な関係</li> <li>・愛着対象者が安全基地として機能</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度に他人にも相談するし、自分で考え、解決できることは解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事に対して積極的</li> <li>・大きな問題も少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に地位が高い</li> <li>・仕事への満足度が高い</li> </ul>
不安定型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的に不安定な親に育てられる</li> <li>・幼児期に虐待を受ける</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の愛情を求めるあまり不安になったり、揺れ動く</li> <li>・自ら苦しみを訴え、治療を求める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事での結果が対人関係の問題にすり替わりやすい</li> <li>・人からどう見られているのか？というのがとても気になる</li> <li>・人からの承認や安心を得ることが何よりも重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をこなせているのか？ということに自信がない</li> <li>・平均より給与が低い傾向</li> </ul>
未解決型					
回避型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から親との情緒的な関係が希薄</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛情や共感を期待しない</li> <li>・絆や共感を捨て去ることで自分を守る</li> <li>・「求めない」という戦略をとる</li> <li>・心の傷や挫折、不運な偶然が重なったとき悲劇(突然理解できないような激しい犯罪)が起こる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の問題よりも、同僚などとの対人関係の亀裂が多い</li> <li>・孤立を招きやすい</li> <li>・協調性に欠ける</li> <li>・他人の痛み鈍感</li> <li>・ルールと統制への嗜好</li> <li>・人よりも物や情報を好む傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い知的レベルや技術</li> <li>・外科医やIT系技術者として成功</li> </ul>

### ■ 人間同士の親密な関係に消極的

- 性的に結ばれる関係(セックス)に対しても消極的
  - ・ 20代独身男性の4割以上が異性と付き合った経験がない
  - ・ 30代未婚男女の四分の一以上がセックスの経験がない  
(2010年代に行われた調査)

### ■ 自分の感情が分からない

- 喜怒哀楽の感情の中枢である扁桃体が未発達
  - ・ 感情が希薄
  - ・ 喜怒哀楽そのものが未発達
  - ・ 自分でも自分の感情がよくわからない
    - ⇒ 気持ちを聞かれてもうまく答えられない
    - ⇒ 自分が悲しいとかつらいとか、そんなことなるべく見ないように生きてきた結果

### 感情の抑制

- 精神的に安定(しているように見える)
- 自分の感覚や気持ちを他人事のように切り離していきている
- 身体に無理がかかっていることを自覚できない
- ある日突然不安に襲われパニック障害や心身症になる

### ストレスからの回避

- 人生の本当の目的や信念を持たない
- 精神的に安定しているようでストレスを受けやすい
- 感情を紛らわすもの・ことが必要
- ビジネスあるいはゲーム
- 依存性の高い遊び、薬物

### ビジネスの世界では

- 従前⇒トップに向くのは共感型の人
- 今後⇒共感などは必要ない？
- 例えば、ビル・ゲイツ(マイクロソフト)
- 人とのコミュニケーションに課題を抱えていた
- 信頼関係よりも法規や契約を優先⇒大きな成功

### 回避型タイプが増えた背景

- 経済合理性の追求
- 効率が悪い「愛着」という仕組みを破壊⇒愛着崩壊
- 人間の情動や精神、肉体の健康を支えるオキシトシン(ホルモン)・システムを機能不全に陥らせている

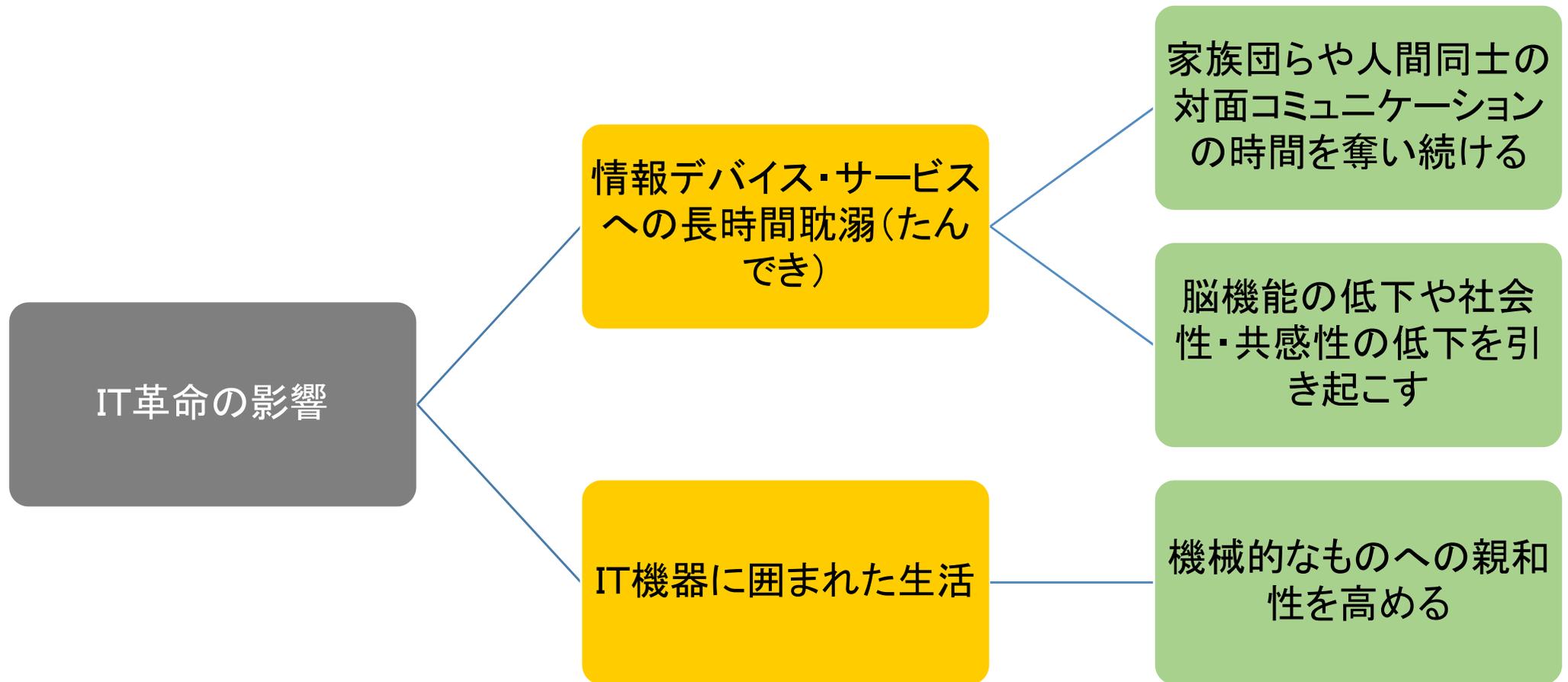
### オキシトシン・システム

- 他人への共感を育て、絆を維持
- ストレスや不安から我々を守る
- 幼少期に家族に守られながら、特に母親との安定した愛情関係をたっぷり持つことが必要

### 1960年代に起きた変動

- 女性の社会進出
- 核家族化に伴う虐待行為の増加
- 子どもが育つ環境が著しく変化
- 愛着障害が激増し始める
- 回避型タイプの人たちが増え続ける

## 8.回避型タイプの人たちが増えた背景（IT革命の影響？）



## 9. 今後の人類に何が起こるか？（スウェーデンの事例）

スウェーデン

- (日本では)近代の福祉国家モデル
- 一歩進んだ回避型社会を構築

徹底した個人主義と合理主義

- 子育てや介護を公共施設の手にゆだねてきた

愛着崩壊

- 親子の情愛が薄れる
- 子どもたちは年老いた親を介護施設に送り込むことにも葛藤や躊躇を感じない
- 会いに行くこともまれ
- 老人たちは孤独にさいなまれている

スウェーデンの悩み

- アルコール依存症
- 高い自殺率
- 高い犯罪率

未来予測

回避型人類の社会

● 過去ものとなった結婚  
⇒ 大部分の人は結婚しない。生涯独身ですごす。妊娠、育児、育児という制約から解放される。

● 子づくりと子育て  
⇒ 親が育児を行うことの危険が認識。基本的に育児は政府が管理。

● 公平と平等の理念に基づく社会  
⇒ 回避型の人に優しい社会

● 生きがい  
⇒ 意味のない遊び。遊びに飽きてしまったら絶望であり終わり。その時死（安楽死による自殺）を選ぶ。

● 人格の希薄化あるいは消失  
⇒ 自分の気持ちが分からない、自分が感じられない

共感型人類の再逆転

● 愛着を回復しようとする動きが強まる  
⇒ 社会も愛着を守るための方策を強化。安定した愛着をもつ人が再び増えていく...

【共感型人類】  
愛着や共感を維持している人たち